

いつもなにかがあたらしい—

東京ニューシティ管弦楽団

第86回定期演奏会



文化芸術振興費補助金  
(トップレベルの舞台芸術振興事業)

# TITAN

オーケストラの最弱音から炸裂する轟音まで マーラー音楽の交響世界はここから始まる

シマノフスキ Karol Szymanowski

## 交響曲第4番《協奏交響曲》作品60

Symphony No.4 for Piano & Orchestra(Symphony Concertante) op.60

マーラー Gustav Mahler

## 交響曲第1番 ニ長調

# 「巨人」

＜新校訂版＞

Symphony No.1 D Major(Titan)

シマノフスキの名作とともに  
音楽監督・内藤彰がオーケストラの  
魅力を存分に引き出す



指揮：内藤 彰  
Akira Naito



ピアノ：木田 左和子  
Sawako Kida

2013年 **3月20日** (水・祝) **14:30開演**  
13:30ロビー開場  
**東京芸術劇場コンサートホール**

料金(全席指定)

S:6,000円/A:4,500円/B:3,000円/C:2,000円/リラックスシート:3,000円

学生半額(25歳以下、S席を除く) 小中高生1,000円(保護者同伴S席を除く)

シニア割10%引き(60歳以上) 友の会会員 15%引(随時入会受付 年会費500円)

※上記割引については事務局までお問い合わせ下さい。 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※やむを得ず、出演者・演目が変更になる場合がございます。ご了承ください。

■お申し込み・お問い合わせ

東京ニューシティ管弦楽団事務局(平日10:00~18:00)

チケットダイヤル: **03-5933-3266**

FAX: **03-6766-3782**

ホームページからお申し込みいただけます。 <http://tnco.or.jp>

チケットぴあ(コード:186-761) TEL:0570-02-9999 <http://www.t.pia.jp>

東京芸術劇場ボックスTEL:03-5391-3010

東京文化会館チケットサービス TEL:03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp>

イープラス <http://eplus.jp> (パソコン & ケータイ)

【主催】一般社団法人 東京ニューシティ管弦楽団

【後援】日本指揮者協会



企業メセナ協議会  
助成認定活動

## 其処ここから沸き立つロマン、フルオーケストラの最弱音から炸裂する轟音まで マーラー音楽の交響世界はここから始まる

### シマノフスキの名作と併せ、音楽監督・内藤彰がオーケストラの魅力を存分に引き出していく

「私は生きるために指揮し、作曲するために生きる」——こう、マーラーは語っていたが、オーストリア・リンツ近郊の小さな歌劇場を出発点にヨーロッパ各地の歌劇場を次々と渡り歩き評価を高めていく姿はまさに「さすらう若者」であった。さまざまなオペラを貪欲に指揮する中で、マーラーの作曲への感性はどんどん研ぎすまされていく。

20歳代半ばになるうかという時、マーラーはジャン・パウルの小説『巨人』を愛読する中でひとつの大作への挑戦を思い立つ。4年の歳月をかけ、2部構成全5楽章の交響詩が完成。しかし、33歳になってこれを改訂する。さらに時を経て36歳。演奏のたびに細かな修正を重ねてきたが、今度はひとつの楽章をばっさりと落とし、各楽章の副題も消し去って、全4楽章の「交響曲」として発表する。

これが、のちに後期ロマン派交響曲の大作作曲家となるマーラーの輝かしい出発点、交響曲第1番『巨人』の誕生だ。実に12年越し、「作曲するために生き」てきた結実であった。そして、その時間に寄り添うように作曲・改訂されてきた連作歌曲集『さすらう若人の歌』からの旋律がこの交響曲に使われ、歌曲集名にある「若人 (ein Geselle)」が技能を磨くために各地の名匠を訪ね歩く職人を指す言葉であると知ると、まさにこの交響曲第1番は若きマーラー自身の姿を暗示しているとも言えるのだ。

大編成の管楽器群がずらりと並ぶオーケストラの姿と弦・管・打楽器が一体となった魅力的な音色のこの大作は「マーラーに酔いしれる」魔力に包まれている。

それに先立って演奏されるシマノフスキ作品は20世紀初頭の激動のポーランドに生きた大作作曲家の代表作。ピアノを得意とした作曲家自身が独奏者として演奏することを想定していたので、交響曲の名ではあるがほとんどピアノ協奏曲の趣きを呈している。独奏の木田左和子はポーランドに学び、第1回シマノフスキコンクールでディプロマを得ており、この曲の演奏に最もふさわしいピアニストを迎えることになった。



#### ◆内藤 彰 (指揮) Akira Naito (Conductor)

名古屋大学理学部卒業後、桐朋学園大学研究科(指揮専攻)修了。日本の多くの主要オーケストラの他、ベオグラードフィル、モスクワ響、ロシア国立ヴァロニッシュ歌劇場『セヴィリアの理髪師』、ペラルーシ国立歌劇場『蝶々夫人』、サンクトペテルブルグ・カペラ響、ロシア国立ウリヤノフスク・アカデミー響、国立北ハンガリー響、ミラノスカラ座フィルのメンバーを中心とする州立ロンドンバルディア室内管、メキシコ州立響を指揮、2010年4月にはメキシコ国立交響楽団の定期演奏会を指揮、また2011年5月にブルガリア国立プロヴディフィルに客演した。

ブライトコップ新版によるベートーヴェン交響曲チクルス、最新の楽譜研究に基づくブルックナー・シリーズはライブ録音CDと共に高い評価を得ている。特にここ数年、誰でも知っている名曲の伝統的演奏慣習の過ちや楽譜の大きすぎる誤りを正した演奏で世界的注目をあびている。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及びプロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督・常任指揮者、日本指揮者協会幹事。



#### ◆木田 左和子 (ピアノ) Sawako Kida (Piano)

桐朋学園大学卒業後、ポーランド政府給費留学生としてポーランド国立ショパン音楽アカデミー(現ショパン音楽大学)研究課程に留学。留学中、ワルシャワをはじめ各地でリサイタル、オーケストラとの共演の他、シマノフスキ、ルトスワフスキ等ポーランド作品の放送録音を行う。1983年、第1回シマノフスキコンクール(ポーランド)ではディプロマを受ける。帰国後、リサイタル、日本シマノフスキ協会例会、NHK-FM放送の他、東京ソリスト・サロンコンサートでは、ソロやヴァイオリンとのデュオで毎回ポーランド作品を演奏。ポーランド・ラジオ・オーケストラとの放送録音、ヴィラノフ弦楽四重奏団との共演の他、ポーランド・カリシュ・フィルハーモニー、ヴァウブジフ・フィルハーモニーの定期演奏会にたびたび出演、山形交響楽団の定期演奏会にもソリストとして出演している。1993年第2回ウィーン国際コンクール(オーストリア)ピアノ部門第2位及びジャン・フレデリック・ベルヌー賞受賞。また、2005年愛知万博ポーランド館にてリサイタル、2010年日本ショパン協会主催「ショパン・フェスティバル 2010 in 表参道」にてリサイタルを行った。2007年よりリサイタル「シマノフスキ“3M”とマズルカ」シリーズを3回に亘って行う。これまでに、佐久間美智子、岡崎陽子、福岡敏彦、森恵子、上野久子、須田真美子、バルバラ・ムシンスカの各氏に師事。現在、昭和女子大学非常勤講師。

#### 東京芸術劇場キッズルーム(託児室) 開室!

9月のリニューアルオープンに伴い、常設の託児室が設置されました。小さなお子様をお持ちの方も、お気軽に演奏会をご鑑賞いただけます。

■対象：生後4354カ月～就学前まで ■開演1時間前～終演後30分まで (株)テノコーポレーション TEL:03-5413-3427